

「志をもって生きる」 ～向上・礼節・思いやり～

2019 年 4 月 12 日 校長 加藤 英優

～社会の中でよりよく生きていくための「汎用性の高い基礎力」の育成～

学校の教育目標

志をもって生きる

- 一、常に自分を高める生徒 『向上』
- 二、ルールやマナーを守る生徒 『礼節』
- 三、感謝と思いやりの心をもつ生徒 『思いやり』

4月1日に新しい元号が発表され、来月からは「令和」の時代へと移ります。平成の30年間は、いくつかの大きな自然災害に見舞われ不幸なこともありましたが、現代史の中で唯一戦争を経験せずに済んだことは本当に幸せであったと思います。

平成に生まれ育った子供たちは、まさしくデジタルの申し子です。手書き→ワープロ→パソコン→高性能パソコン、ポケベル→ガラケー→スマホ、レコード&カセットテープ→CD等々、短期間にどんどんと進化していくデジタル機器についていくのが精一杯の昭和生まれの私と違い、現代っ子は、いとも簡単に機器を扱います。取説など見る必要もなく、感覚的(本能的?)に使いこなしています。そんな子たちを見ていると、年を

とるということはこういうことかと実感してしまいます。

「令和」になり、Society5といわれる時代へ突入しようとしています。技術の進歩は衰えることなく、それにとまって社会の変化もまた激しさを増す一方です。「すぐ役に立つこと」は「すぐに役に立たなくなる」ということです。学校でいくら最新の技術や情報を学んでも、大人になる頃にはすでに過去のものになってしまいます。そんな時代を力強く生きていくためには、自分で自分を「更新し続ける」しかありません。

義務教育に携わるわたしたち学校が子供たちにしてやれることは、将来どんな道を選択しても、自らの力で生きていくために必要な「汎用性の高い基礎力」をつけてやることだと思います。学校では、以下のような力を身に付けさせることを目標にして、職員一同力を合わせて頑張る所存です。どうかよろしくお願いします。

◇「多様性に富む集団の中で、他者と協働し、自分らしく生き生き生きる力」

- ①目標の達成に向け我慢強く取り組む力(忍耐力、目標への情熱)
- ②感情をコントロールし、対人関係を調整する力(自己抑制、自尊心、社交性)
- ③異なる立場や意見を尊重し、仲間と共にやり抜く力(尊敬、思いやり)

◇「情報を処理する力」

- ④新しい知識や技能を積極的に学ぼうとする生徒

◇「情報を編集する力」

- ⑤獲得した知識や技能を活用し、考えたり表現したりできる生徒